

第42週の発生動向 (2005/10/17~2005/10/23)

1. 警報・注意報は出されていませんが、感染性胃腸炎及び水痘の届出数が増加傾向にあります。また、ノロウイルス等の感染性胃腸炎については、集団施設における便、吐物の取り扱いに十分注意してください。

第42週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱															0
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.50	10	1.00	3	0.33			2	0.33	1	0.25	20	0.48	-1
(62) 感染性胃腸炎	25	3.13	8	0.80	13	1.44	2	0.40	2	0.33	7	1.75	57	1.36	22
(63) 水痘	10	1.25	21	2.10	5	0.56	11	2.20	9	1.50	1	0.25	57	1.36	21
(64) 手足口病	1	0.13	3	0.30	2	0.22	1	0.20	2	0.33			9	0.21	-7
(65) 伝染性紅斑	7	0.88	2	0.20	1	0.11			4	0.67			14	0.33	-6
(66) 突発性発しん	3	0.38	5	0.50	6	0.67	1	0.20	8	1.33	4	1.00	27	0.64	7
(67) 百日咳															0
(68) 風しん											1	0.25	1	0.02	1
(69) ヘルパンギーナ	2	0.25	3	0.30			1	0.20					6	0.14	-4
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	8	1.00	3	0.30	4	0.44	12	2.40	5	0.83	11	2.75	43	1.02	10
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	4	2.00	1	0.33	5	2.50	3	3.00	10	5.00			23	2.09	18

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
青森	13	8	5	2
弘前	16	10	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
合計	65	42	23	11

は警報
  は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

(82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 6人 (17年計 124人)

感染症の窓

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマ・ニューモニエを病原体とし、飛沫感染を主な感染経路とする呼吸器感染症です。

全国での第40週の定点当たり報告数は増加傾向にあり、過去6年間で最も多く推移しています(図1)。また、発生報告数を年齢別に見ると、2002年以降では4歳以下が最も多く、次いで5~9歳、10~14歳の順となっており、毎年14歳以下の報告数が全体の80%以上を占めています(図2)。青森県内の発生報告数は、八戸保健所管内で41週から増加傾向にあります。年齢別では、全国と同様の傾向が見られます。

今後冬季に向かうにあたり、マイコプラズマ肺炎の発生はさらに増加することが予想されるため注意が必要です。予防としては、手洗い、うがいなどの励行と患者との濃厚な接触をさけることです。

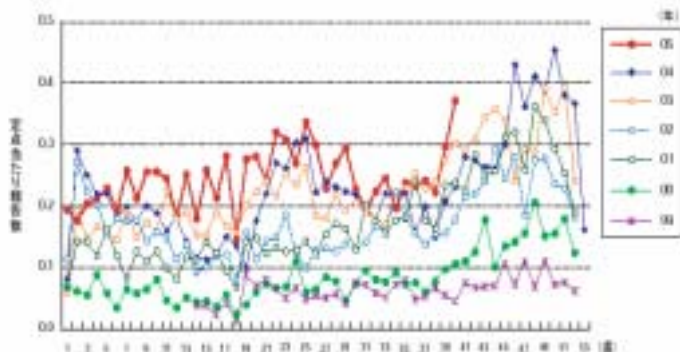


図1 マイコプラズマ肺炎の年別・週別発生状況(1999年4月~2005年40週)



図2 マイコプラズマ肺炎報告症例の年齢別割合(2000~2004)